

広島民報

2019年 12月1日 第2550号
月3回刊 日曜日発行
発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11/電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月 240円(送料123円)/1部 80円
郵便振替 01330-2-34778
© 広島民報社 2019年

公立高校入試改革の素案 県教委が実施時期を延期 学校現場の声で慎重対応を

日本共産党・辻つねお県議の論戦



広島県教委が9月13日に示した「公立高校の入試改革の素案」(推薦入試の廃止、内申書の簡素化)について、日本共産党の辻つねお県議は10月29日に開かれた決算特別委員会で「学校や教員、保護者に説明し、意見を聞いて慎重に進めるべきではないか」と提案しました。同素案は、2001年春から続いている現在の入試制度を抜本的に改め、早ければ現在の中学2年生から入試方法を変更する計画のため、学校現場から不安の声が多く寄せられました。平川理恵教育長は11月8日、実施時期を2年ほど先送りすることを発表しました。異例の方針転換です。以下、辻県議の論戦です。

現場の意見を聞いて慎重に進めるべき

同素案についての県民意見の公募(9月18日～10月17日)には、755人から1545件のパブリック・コメントが寄せられました。平川教育長は、在籍中の制度変更への不安を訴える中学生たちの

中学校現場のほとんどの教職員が、新聞やテレビの報道で素案について初めて知りまし

た。

辻県議は「進路指導担当の先生を含めて発表されるまで知らない」とか「驚いている」などと聞き直り、姿を消したままだと批判しています。

辻県議は「進路指導担当の先生を含めて発表されるまで知らない」とか「驚いている」などと聞き直り、姿を消したままだと批判しています。

11月22日には広島市安佐南区のJR緑井駅近くの大型店前で「安倍政権の政治の私物化許しません!」と

の田村智子議員の質問は良かった。野党がまとまって追及するにも、共産党が中心的な役割を担っているの

核を見る会と河井夫妻疑惑 広島県の共産党が宣伝を強化

広島県の日本共産党は、安倍晋三首相主催「核を見る会」の私物化問題と合わせて、広島県選出の河井克行前法相・衆院議員と河井案里参院議員の夫妻の公選法違反疑惑を告発する宣伝活動を強めています。

県内各地で議員を中心に街頭演説。日本共



宣伝する藤井市議(左)ら=11月22日、広島市安佐南区

産党の田村智子参院議員の国会追及の反響が大きく、政府は来年の「核を見る会」を中止し、藤井敏子市議が党員の疑惑では、安倍首相が「任命責任は私にある」と繰り返し街頭演説、通勤途中の男性(58)

「安倍政権の政治の私物化許しません!」と語りました。

かったというのが実態だ。今のままでは、どこで決まったものか分からない上から降りてきたものをやらされるといって受け止めが広がる。重要な改革をするのに、学校現場に意見を求めるべきだったのではないか。今後は1次案を示して説明すべきだ」と要望しました。

推薦入試の弊害 生徒が面従腹背に

主要な変更点の第1の推薦入試の廃止は、毎年2月上旬に実施している推薦入試(選抜I)を3月上旬の一般入試(選抜II)に統合。

「選抜Iの受検資格を有するのは、3年間の行動記録を基礎資料にして中学校入学時に示される『高校推薦基準』をクリアした生徒だけ。そのために入学時から教師の指示に対

して従順・素直で、社交性をもち、常に笑顔を絶やさず、生徒会や部活を積極的にを行い、決して校則に違反しない生活態度を装うような生徒でない」と要件を満たすことができない。結果、多くの面従腹背の生徒をつくりだすことになってきた。何かのたびに「これって内申点に関係ありますか?」と聞いてくる生徒の多さにはうんざりする。

辻県議は「改善にあ

りました。心疾患をかかえ被災にあつたAさんは、移った先のみなし仮設住宅が水島工業地帯で空気が悪く、肺の病気までも患い仕事を辞めざるをえなくなりました。中学生の子どもを持つBさんからは、子どもが今でもへりコプターの音がする

(2面に続く)

比例中国 大平よしのぶ 奮戦記



季節は秋から冬へ移りゆく中、話題は「核」で持ちきりです。政府主催の公式行事「核を見る会」が

その私物化ぶりはいまはや底が抜けています。西日本豪雨から1年5カ月。また寒さがこたえる時期になってきました。広島県では災害で亡くなられた方が143人となり、そのうち34人は災害後さまざなケアが行き届

と当時がフラッシュバックし、泣き出してしまふとのこと。被災地では、今なお被災者の命と健康が、生活や仕事が、一人ひとりの尊厳がおびやかされています。先日、岡山の皆さんと上京し、せめて病院くらいは安心してかか

るよう、被災者の医療費の窓口負担は国の責任で引き続き免除にせよと厚労省に申し入れました。しかし担当者は過去の災害との比較などいろいろ持ち出しつつ、最後は「予算には限りがありますから」と拒否。

西日本豪雨から1年5カ月

かず亡くなられた「関連死」。中には自ら命を絶つた方までおられます。先日県の「こころのケアセンター」の職員に話を聞きました。「深刻な相談が増えていく。国は3年で終了というが、あと10年はこの体制が必要だ」と。

「お友だち」には青天井で大盤振る舞いする一方で、被災者には「予算の限り」を盾に我慢を強い、最低限の権利をも奪っていく。本当に許せません。悔しくてなりません。

この怒り、必ず総選挙勝利に実らせねば。今年もあと1カ月。皆さん、元気がいっぱいしましょう。

地下水

秋だというのに紅葉の話より核の話。連日の「しんぶん赤旗」報道

で安倍首相の政治の私物化の実態が明らかになっています。◆「核を見る会」に招待された安倍後援会のみならず、嬉しくてたまらずブログなどSNSで写真や記事を拡散していたのが、ある時期いつせいに消されました。中でも5月9日、共産党の宮本徹議員が「参加者名簿を国会に提出せよ」と質問したその日に大型シミュレーターにかけていたことは誰の目にも隠蔽そのもので、許すことはできません。◆ご当地広島では、河井克行法務大臣が妻の案里氏の選挙法違反疑惑で大臣を辞任。本人たちは説明責任を果たさないまま所在不明が何日も続いています。地元新聞に「国民の負託をどう考えているのか、女性の代表として私たちの声を国会に届けて欲しい」と1票を投じた人も少なくない。広島県の名譽をかけて事実の解明を」と投書した主婦の気持ちに共感する人も多いでしょう。◆「政治の私物化許さない」の声を一気に広げ、安倍退陣に追いこみましょう。